

企業名： 明電舎

レポート名： 明電舎レポート 2024

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

明電舎レポートには企業理念、ありたい姿・ビジョン、大切にしている価値観が記載されており、理解できる。特に企業スローガンの、「quality connecting the next」は、その説明とともに明電舎の特徴と強み、目指すべき姿を表しており、良いと思う。また、道筋として数値目標が示されているのも好感できる。

一方で、具体的な数値と抽象的な理念やビジョンの間が少し開きすぎていると感じた。中期経営計画を読めばある程度理解できるが、統合報告書だけでは理解しづらかった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

統合報告書からは、人財とお客様満足を重視しているということが強く伝わってきており、これが競争優位性につながると感じた。また、各事業グループの事業説明において事業実績が記載されており、明電舎の強みを理解しやすかった。一方で、競合他社との比較や業界内での立ち位置、自社特有の技術等の具体的な記述はあまり見られなかったことは競争優位性を伝えるうえで改善すべきだと感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

中期経営計画や2030年の目標は示されているものの、業界の予測や将来の見通しについては各事業グループのページに記載があるだけでしっかりとした記載は見られなかった。明電舎の事業内容を考えると、半導体の市況や物価高、脱炭素やカーボンニュートラルのトレンドなど、様々な要素が複合的に業績に影響すると考えられる。これらの変化に対応し、将来的に競争優位性を保っていくビジョンを示すことが必要なのではないか。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人財戦略ページでは、DEIの推進や従業員エンゲージメント指数の導入などが示されており、人財を重視していることが読み取れる。これらから、明電舎では働きやすそうだと感じる。さらに、社員の育成制度についても記載があり、自身の人的資本の価値向上が達成できると思う。

少し気になった点としては、人的資本の価値向上よりも働きやすさを重視しているよう

な印象を受けた点だ。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点としては、ページ構成やページごとのつながりが整理されており、読みやすかった点だ。

改善の余地がある点としては、経営組織の構造がわかりづらい点だ。特に複数の事業グループと拠点を持つ明電舎は組織構造が複雑なのではないか。どのような構造で事業を行っているかがわからなかった。

また、各事業グループの独立性が高い印象を受けた。多角的なビジネスを強調したいなら今のままでよいが、各事業グループ間の協力関係やシナジーについてアピールしたいのであれば、そういった記述も挿入するべきだと感じた。